



2016年度 天文資料

平成28年度 第2号

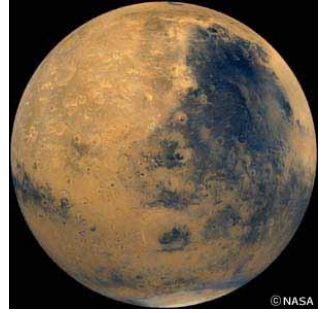
平成28年 5月 1日

発行：佐世保市少年科学館
佐世保市少年科学館



<5月31日(火) 火星が地球に接近>

今年、火星が地球に近づいており、5月31日(火)には、地球まで約7528万kmまで近づきます。これは、地球と太陽の間の距離の約半分です。すでに-1.0等級を超える明るさになっている火星ですが、5月の下旬には-2.0等級まで明るくなります。その後、火星は徐々に地球から遠ざかっていきますが、夏までは、0等級を超える明るさで輝きますので、絶好の観測チャンスです。



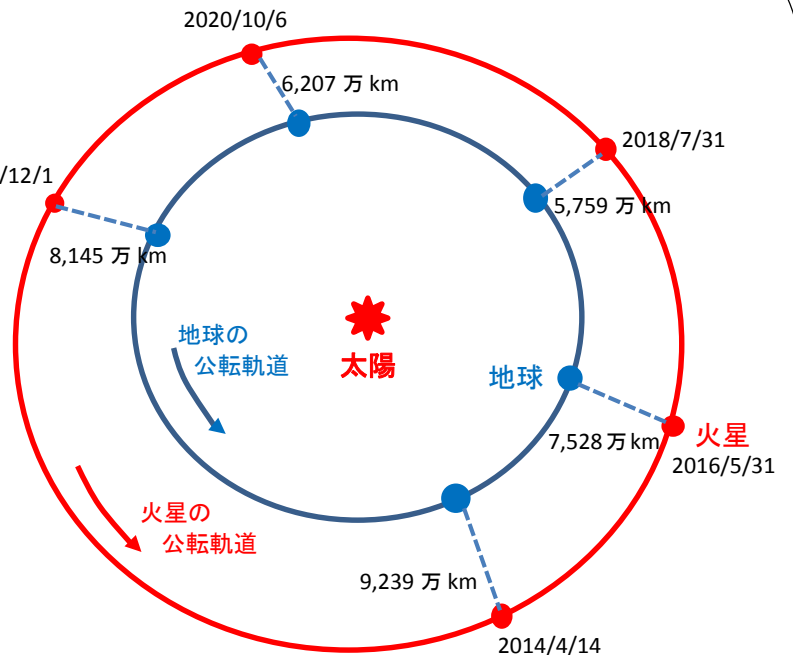
探査機が撮影した火星

今回は、この火星を取り上げ、火星が地球に近づくしくみ、火星の見える時間と方向についてお知らせします。

火星は2年2か月に1回地球に接近

火星は、地球と同じように太陽のまわりを回る惑星で、地球の1つ外側を回っています。地球が太陽のまわりを365日で1周するのに対し、火星は687日で1周します。つまり、火星は約1年と10か月半で1周することになります。そのため、約2年と2か月に1度の割合で、地球に接近することになります。地球がほぼ円形で太陽のまわりを回るのに対し、火星は楕円形で太陽のまわりを回ります。そのために、地球と火星が接近するときの距離は一定ではありません。

<2014年から2020年までの地球と火星の位置関係>



今回の最接近は5月31日、地球に約7528万kmまで近づきますが、これはかなり近い方です。次の接近は2年後の2018年7月31日ですが、このときは約5759万kmまで近づく大接近となります。

火星の見える時間と方向

5月上旬は、火星は22:00前にさそり座とともに昇ってきます。23:00過ぎには、南東の空でさそり座のアンタレスと赤い色を競い合うように輝きます。アンタレスは自ら赤い光を出していますが、火星は太陽の光を反射して輝きます。火星が赤く見えるのは、表面の土に酸化鉄(赤錆)が多く含まれるためです。中旬、下旬と経過するごとに、早く昇ってくるようになります。近くには、土星もあり、にぎやかな星空を演出してくれます。少年科学館では、5月28日に天体観望会を予定しています。火星と土星を望遠鏡で見るチャンスです。科学館開館時にお電話かご来館にてご予約ください。

